

第2回 下水道における放射性物質対策に関する検討会議事概要

○ 第1回の議事要旨について

- ・第1回の議事要旨について了承を得た。

○ 処理場周辺地域の環境について

- ・下水汚泥の焼却施設等の排気の放射性物質の調査方法について検討した。
- ・放射性物質が検出された脱水汚泥等の場内保管方法について、地方公共団体より情報収集して現状を把握して類型化し、「放射性物質が検出された上下水処理等副次産物の当面の取扱に関する考え方」（原子力災害対策本部 6/16）に適切に対応して保管が実施されていることを確認した。
- ・周辺地域への情報提供のあり方について、測定結果とともに放射線に関する基礎知識や市街地の空間線量率をあわせて示しているなど、参考になる事例を整理した。

○ 下水処理場における放射性物質の挙動について

- ・下水処理場4箇所の調査結果より、下水処理場内の放射性物質の挙動を検討した。
- ・晴天時調査の結果では放射性物質の流入量よりも脱水汚泥の排出等に伴う排出量の方が大であり、下水処理場の生物反応タンク等に保持されている放射性物質は、長期的には減少傾向であることを確認した。

○ その他

- ・高放射能濃度の下水汚泥の保管方法等について、他の廃棄物の事例を踏まえて現状の技術について整理した。閉じ込めの機能の強化、放射線遮断、放射線監視、管理体制等について、下水処理場の管理の実態に即して適切に対応する手段を検討した。
- ・高放射能濃度の下水汚泥の保管および処分に必要な減容化技術を比較し、その利点と課題を検討した。